



TITLE:

<雑録>文淑と文淑

AUTHOR(S):

小野, 勝年

CITATION:

小野, 勝年. <雑録>文淑と文淑. 東洋史研究 1939, 5(1): 59-59

ISSUE DATE:

1939-10-30

URL:

<https://doi.org/10.14989/145663>

RIGHT:

- ⑦ 此の點に就いては目下印刷中の『支那古銅器形態の考古學的研究』(東方文化研究所報告に詳しく述べて置いた。
- ⑧ 「河南安陽發見の遺物」(前出) 第二二圖參照。
- ⑨ 梅原「歐米寬儲支那古銅精華」藝器部圖版第一二二所掲。
- ⑩ 梅原「杞禁の考古學的考察」(東方文化學院京都研究所報告第二冊) 參照。
- ⑪ 「河南安陽發見の遺物」(前出) 第一三圖參照。
- ⑫ 濱田博士「支那古銅器研究の新資料」(『國華』第三七九號所載及『東亞考古學研究』所收)
- ⑬ 梅原「安陽出土と傳へる二三の玉璽の戈に就いて」(『美術研究』第八八號) 參照。

文淑と文淑

(前略)東洋史研究四卷六號落手、早速披見致しました。卷頭論文那波博士の中唐時代俗講僧文淑法師釋疑は曾つて文淑法師に就いて少しく疑問を有したことがあるので、興味を覺えながら拜讀しました。疑問と云ふのは歷代名畫記校勘の際に生じたものです。即ち同書の兩京寺觀等畫壁の條に、

菩提寺……(佛)殿内東西北壁並吳畫。其東壁。有菩薩。轉目視人。

法師文淑。亡何令工人布色損矣。

と見えます。これは津逮祕書本や學津討原本に依つたものですが、王氏書畫苑本だと文淑が文淑になつて居

ます。又段成式寺塔記には、

平康坊菩提寺……佛殿内槽東壁、

維摩變、舍利佛。角而轉睞。元和末。俗講僧文淑裝之。筆蹟盡矣。

とあります。これは歷代名畫記の記事と同じことを述べて居るものです。偕てさうだとすると此處では文淑と文淑とは同一人でなければならず、かくてどちらかが書寫の誤りだと考へられます。其節私は此法師が慈覺大師の入唐求法巡禮行記に見える大德文淑法師と同一人だとして文淑は文淑の書誤りであると決めた(拙譯一〇六頁)。今度博士の高説に依ると當時文淑と文淑と二人の俗講僧があつた譯ですが、かうなると恐らく白描でものしたと思はれる

吳道玄の名畫を愚劣な着色で臺なし

にさせた俗講僧は果して高僧文淑か

庸僧文淑か迷はざるを得ません。猶

因話錄の記事に就いては著者が武宗

の排佛と云ふ様な大事件を経過して

俗講に對する批判の眼を異にする様

なことがなかつたか否かを顧慮して

みる必要がないではないでせうか。

例せば〇〇教の教祖とか云ふ連中も

一度司直の前に立つと其以前とは逆

に淫穢鄙褻の人物と化してしまふ。

此點に關しても亦未だ氷解し能はざ

るものがある次第です。別に重要な

問題である譯ではないのですが、曾

つてのことを思ひ出した儘に記しま

した。(下略)

九月十五日北京にて 小野勝年